



指導計画

自立活動（ことば・コミュニケーション） ～単語から 2語文へ～

兵庫県立阪神養護学校
指導者 小西則子

長期目標

言語理解の幅を広げ、日常生活上のコミュニケーションを円滑にする。

指導にあたって

自発的な音声表出面は十分ではないが、身近な日常生活で使われる名詞の理解は、大体、出来ていることが多い。従って、生活の中で、「～をとって」などには、対応した行動をとることができる。しかし、日常の言語理解は、大抵、名詞を手がかりとしていたり、場面への依存度も高く、表現においても、名詞に動作的要求をこめている等、言語によるコミュニケーションに限界がある。そこで、日常のコミュニケーションを広げていく上で、動作語や様子のことば、簡単な抽象名詞の理解へと広がり、さらに自発での表現へとつながっていくことがのぞまれる。とりわけ、動作語を中心とした主述の関係理解は生活上も必要度が高い。そこで、単語レベルの獲得から 2語文の理解と使用につながる指導内容により、言語活動の幅がひろがることをめざした。

対象生徒について

ひらがなの1音1音は、読める。身近な物の名称については、ひらがなと絵とのマッチングができるものもある。聴覚入力より、視覚的なインパクトによる理解や記憶の方が良い傾向がある。

指導の流れ

- いくつかの動作語の理解をすすめる
- 動作主と動作の関係の理解をすすめる
 - ・語文としての理解をすすめる
 - ・語文の内容をひろげていく

短期(学期)目標

動作主と動作の関係の理解をすすめる

本時の目標と展開

目 標 :目標語についての動作主と動作の関係の理解をすすめる



留意点：導入として、動画で身近な人物や、経験した内容、場面を登場させることにより、理解しやすくする。同時に、視覚情報の方が入りやすく、しかも1音1音の判別、読みができていたので、ひらがな文字を画面に出し、記憶の手がかりをつくる。同じ題材を、違ったいろいろな画像で理解していくことが理解のシンボル化をはかる上で必要なもので、静止画も使う。静止画と動画を関連づけて展開させることにより、より一層のイメージの定着をはかる。生徒の能動的な学習活動を進めるために、クリック動作の反応や展開を楽しくしたり、正解を分かり易く伝えたり、次ページへの移動動作を生徒が行えるようにする。

展開：

	学習内容	生徒の活動	教材とねらいについて
導入	動作に着目する。	動画を見て、動作語や動作主を理解したり、「誰々が」「する」の関係を意識する。	動作への着目を喚起し易いように、本生徒や身近な人の実際の活動場面の動画を利用。
展開	動作語と動作主の関係を理解する。 1 基本的な動作語 2 使用頻度の高い動作語	動画に対して。 ---- 「何している？」---- ・対応する静止画の選択 ・ひらがな文字単語の選択 静止画に対して。 ---- 「 しているのはどれ？」 ・動作語を認識して該当する動作絵を選択。 ---- 「 しているのは誰？」 ・呈示された絵に対応する動作主を選択。 ---- 「誰々は何している？」 ・ひらがな単語を選択。 ---- 「 しているのは誰？」 ・呈示されたひらがな動作語に対応する動作絵の選択。	ねらい 映像や静止画から動作の部分に着目できること。 目標語の動作だけをしている動画クリップと対応する静止画やひらがなのマッチング。 ねらい 動作主と動作との対応関係が理解できること。 動作主を統一した異なる動作絵から3択で選択。 呈示した絵に対応するよ動作主の絵から3択で選択。 ひらがな単語を3択で選択。文字との対応により、聴覚的な語感をより確かなものにする。 動作主も動作も異なる動作絵から3択で選択。



		<p>呈示された静止画に対し、ひらがな単語の選択により「誰々がする」の主述の文表現をする。</p> <p>動作主 (画像) 動作語 (ひらがな) 動作主と動作語の 各 3 段階で順次選択を増やす。</p>	<p>選択すれば、「誰々が する」という文になるように選択語以外と助詞は先に表示した画面を設定する。段階を追って、動作と動作主という 2 条件の理解を一度にできるところまでがねらい。</p> <p>各々、数パターン実施。教師の言語教示とともに、正解時の反応として、パソコンでも音声再生し、聴くことへの集中や聴覚的理解の向上も図る。また静止画を動画に変換し、動作イメージの定着を図る。</p>
まとめ	2 語文の理解	<p>音声呈示の問いかけに音声、画面やカードのポインティング等で答える。</p>	<p>導入に用いた実際の体験的な動画の再生を使って、教師とやりとりする。(必ずしも、音声のみの応答でなくてよい)</p>